

文字摺通信

第 89 号
2025年 6月 1日
発行:文字摺歴史文化社

信夫山物語

その 10 青葉山



『信達一統志』御山村の項に「羽山 一名青葉山 (中略) 古事記に羽山津見神 日本紀に麓山祇(はやますみ)と作れり。古は此神を祭奉る山にて羽山と唱へしにや。又青葉山とも云ふ。(歌略) 謹て案するに此山の神は羽山津見なること疑なし。加具津智(土)神の右の手に生ませる神なり。又此山の西の端を烏が崎と云。」

上の写真を見ると信夫山には4つの峰がある。右から熊野山・羽黒山・峰の薬師・月山(明和4年御山村絵図による)である。

先日改めて信夫山をひととおり廻ってきた。峰の薬師で次の説明板を見た。そこに「信夫山は別に大羽山また青羽山ともいい・・・」とあった。

元禄16年の御山村絵図では熊野山は描かれていない。峰は2つ。羽黒山と月山である。

右下の図は信夫山の管理行政区図であるが御山地区をみるとこの地区はL字型で、御神坂の下の鳥居から降りる七曲り坂でくびれ、2つに分けられる。

近世初頭に御山村には二つの寺院があった。羽黒山寂光寺と青葉山薬王寺である。青葉山と聞くと即、仙台を思い出し、そこで思考停止してしまう。しかし、さきほどの峰の薬師の説明板を思い出してみると、「青葉山」は「アオバヤマ」ではなく、「オオハヤマ=大羽山」の転ではないかと考えると合点がゆく。

もう一度御山村絵図を見る。月山のそばに羽山とある。住宅地図では、月山神社のそば、吾妻山の石碑の近くの小字が羽山である。月山神社・湯殿山神社・烏ヶ崎のある峰が羽山であり、峰の薬師のある小山を含めた一帯を大羽山と読んでいたのではないかと考える。大羽山、オオハヤマは青羽山とも書き、やがて青葉山と

